

一人で家にいるときのルール（例）

鹿屋市立串良小学校

お子さんが、短時間でも家に一人になる場合もあるかと思います。お子さんの安全を守るために留守番のルールを決めておくことも大切です。様々な例をあげていますので、お子さんの年齢やご家族の実態に応じて参考にしてください。あくまでも例です。一つでも参考になればと思いあげてみました。

1 電話

- ・ナンバーディスプレイがある場合は、出てもよい番号を伝えておく。
- ・家族からの電話の合図を決めておく。（着信音の工夫や、2回コールして切りもう一度すぐにかける 等）
- ・親の携帯に転送する。
- ・留守番電話で親の声を聞いてから受話器をとる。

2 訪問者

- ・誰が訪ねて来てもでない。
- ・チェーンをして対応する。
- ・インターホンごしに対応する。
- ・「親がすぐに帰るのでまた来てください。」と言う。
- ・「おかーさん、お客さん。」といった後「忙しくて出られないそうです。」とインターホンで伝えて切る。
- ・「宅配は受け取らなくてよい。」と伝えておく。

3 火災

- ・火災の恐れがある物の安全対策を行っておく。
（ライター、マッチを手の届くところに置かない。ガスは元栓を閉めておく。）

4 誰もいない家に入るとき

- ・「お母さん、ただいま。」と元気に言う。
- ・周囲に人がいないことを確認して鍵を開ける。
- ・家に入ったら、すぐに玄関の鍵をかける。

5 親との連絡

- ・緊急時の連絡先を知らせておく。
- ・勤め先の電話番号を知らせておく。
- ・お子さんからの電話にすぐ気づけるように工夫する。

6 その他

- ・親が出かける前にすべての鍵をかけておく。
（トイレの窓も忘れずに）
- ・郵便受けの郵便物をこまめにとる。
- ・日頃から隣近所の方と声を掛け合っておく。

